



414
A 4095



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

謹白言上は維新以来の道に於ては
官制使の急務として及んて一うしり本小書
易儀知として記述せし友人某君より傳水信
河原下及諸座縣に造^{ムスビ}祀神出社河造家
部下總領此社として其古民患氏子に
戸籍に在りし沙汰調書も其人に傳承の河原
ありて一うしり抄録して其後同書に傳
伊勢大神宮に造祀社河原新河原に在り
河原外主人共々抄録して其後同書に

一 程分りて 天照大神神の造化之神の計を説く
計一神の計を説く程を 計中主神
天照大神神にて敷柱の神の中より一神を夫人曰く計一
神とて他をいふは民百姓としていかにいふの言
名に病をいふ事いふ事 造化大神計一神の言
と云はれり方とていかにいふ事いふ言をいふ
計一新の言をいふ事いふ事いふ言をいふ事
いふ言をいふ事いふ言をいふ事いふ言をいふ事
いふ言をいふ事いふ言をいふ事いふ言をいふ事
いふ言をいふ事いふ言をいふ事いふ言をいふ事

右件は古略南勢より得た名忍方と一神をいふ
一神をいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

未八月
宣教女博士八回知紀

